

会 議 録				
令和5年度第2回 生活支援事業協議体	日 時	令和5年9月21日(木) 14時00分～16時00分	場 所	小金井市市民会館 3階 萌え木ホール B会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	高良委員長(法政大学) 石塚副委員長(社会福祉協議会) 田部井委員(社会福祉協議会) 出川委員(介護事業者連絡会) 鈴木委員(民生委員児童委員協議会) 濱名委員(地域貢献活動をする者) 第2層コーディネーター 松村委員(小金井きた地域包括支援センター) 高橋氏(小金井ひがし地域包括支援センター) 吉田委員(小金井みなみ地域包括支援センター) 久野委員(小金井にし地域包括支援センター)		
	事務局	第1層コーディネーター 菊地原氏(小金井市 介護福祉課) 平岡氏、濱松氏(介護福祉課)		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 報告事項				
① 前回協議体からの進捗等				
② 令和5年度第1回から第4回生活支援連絡会報告				
③ 生活支援コーディネーター活動報告(4月分～7月分)				
④ 令和5年度各地域包括支援センター活動報告				
⑤ お金の管理に関する啓発について				
⑥ 個別課題抽出の中間報告				
(2) 検討事項				
高齢男性の社会参加の促進について				
3 その他				
次回協議体の開催予定				
4 閉会				
1 開会				
協議体の開催にあたり資料の確認と委員の出欠確認、会議録作成にあたり全文を記録するものの、会議録の公表に当たっては、市民への分かりやすさを考慮し、発言者の発言内容ごとの要点記録とすることを説明した。				
2 議題				

(1) 報告事項

- ① 前回協議体からの進捗等
- ② 令和5年度第1回から第4回生活支援連絡会報告
- ③ 生活支援コーディネーター活動報告（4月分～7月分）
- ④ 令和5年度各地域包括支援センター活動報告
- ⑤ お金の管理に関する啓発について
- ⑥ 個別課題抽出の中間報告

(高良委員長)

1番目「前回協議体からの進捗等」について事務局から報告をお願いしたい。

(事務局)

資料1 前回協議体からの進捗状況について説明。なお、分類10のお金の管理に関する啓発については、後ほど報告事項⑤にて説明する旨を案内する。

(高良委員長)

これについて何か質問等はあるか。よろしいか。

スマホサポーター養成講座では50代の方が6名参加していただいていたよかったです。多世代でいろいろな交流ができるきっかけになると思う。

またプレシニア・シニアのための社会参加説明会は高齢男性の社会参加に関してこの説明会等を活用して、より多くの方の地域活動のきっかけになればと思うが、4名の参加だったところが残念なので、今後はもう少し周知の方法等も検討する必要性があると感じる。

それでは、②に進みたい。「令和5年度第1回から第4回生活支援連絡会報告」ということで、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

資料2「令和5年度第1回から第4回生活支援連絡会報告」について説明。

(高良委員長)

各包括の生活支援コーディネーターの方や菊地原氏から、何か補足があればお願いしたい。では、他の方から何か質問があればお願いしたい。

連絡会の意義は非常に大きいと感じている。協議体は年に3回しか開催できない状況において、本日、議論する高齢男性の社会参加に関しても継続的に議論し、かつ情報収集もしていただける状況であるからこそ、この協議体で具体的な議論ができるのだと思うので、今後も連絡会を続けていっていただきたい。

それでは、続いて③番「生活支援コーディネーター活動報告」について事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

「生活支援コーディネーター活動報告」について説明。

(高良委員長)

これについて質問等がある方がいればお願いしたい。

今すぐにこの資料を確認するのは難しいと思うが、よければこの後の令和5年度の地域包括支援センターの活動報告を受けて各包括の生活支援コーディネーターに確認してほしいことや、伺いたいこと、他の方々に聞きたいこと等があればお願いしたい。逆に各包括の方々から報告したいことがあればお願いしたい。

では、③番についてはよろしいか。

では、④番に移っていきたい。「令和5年度各地域包括支援センター活動報告」と

ということで、各包括の生活支援コーディネーターから報告をいただく形でよろしいか。

それでは、先ほど確認いただいた資料3とも関連があると思われるので、きた地域包括支援センターの松村委員からお願いしたい。

(松村委員)

きた包括は今年度プラン数、総合相談の件数とも増加傾向になっている、それに加えてコロナの5類移行ということで、あちこちでイベントを行う動きが活発になり、生活支援コーディネーターとしても今年新たに参加する実行委員会が3件、そこで開催するイベントが5件、さらに包括で新たに立ち上げた講座の企画等もあり、正直業務が立て込んでいる状況である。

特に実行委員会として参加している活動は、どこも多世代・異業種参加の会で、新たな出会いから刺激を受けることが多く、またそこから色々な新しいアイデアも浮かぶことがあり、とても楽しく取り組んでいる。

その中で1つ、2層協議体の成果を紹介したい。この場で既に何度も報告している梶野町ないませの会の動きである。この会では参加者間での連携のほか、梶野公園祭り実行委員長で地域の防災力向上に取り組んでいる防災士がメンバーにることから、2層協議体として位置づけてからずっと梶野町会が自主防災組織を立ち上げるためにサポートすることを重要な目的の1つとして活動してきた。

昨年はまず町会との関係づくりを目指して、町会長に梶野公園祭りで行う、ないませの会のイベント開催に当たって、寄附のお願いと町会長個人に対してイベントへの参加を依頼し協力いただいた。今年はそのお礼という形で、4年ぶりの町会で夏祭りを開催することになり、メンバーほぼ全員が町会夏祭りの会場づくり、市長を含めた来賓対応、救護所対応、子供会活動といったところで手伝いをした。夏祭りが終了後、別日に開催された打ち上げにもみんなで参加している。

この打ち上げの際に、きた包括と梶野公園祭り実行委員長の防災士の女性とで、地域の防災力向上のために梶野公園祭りを毎年やっていることや、梶野公園の防災機能の周知や住民間の連携に努めていることを、参加者に話して回ったところ、町会理事以外の方の中に、自主防災組織づくりに興味がある方を数名見つけて、その場でその方たちとLINEグループをつくることができた。その後、その中の2人が町会長に臨時の理事会の開催を提案し、この件で町会での自主防災組織づくりの検討が無事始まっている。

実は昨年の祭りの後に、ないませの会の後押しで町会長が理事会に自ら自主防災組織の立ち上げを提案したところ、そのときには理事会の皆さんからこれ以上は負担が大きくて無理だという話があり流れてしまった経過があった。今回は理事ではない町会員の中から新たなメンバーを担い手としての話が動き始めており、来月4日に市地域安全課の職員に理事会に来てもらい、組織立ち上げの流れや手続について説明してもらおう予定だと聞いている。

社会経験豊富な男性が集まって動くとなら本当に話が早いという感想を持った。また今回包括は人と人をつなぐ動きを行い、実際の活動自体は全く住民主体で動き出しているところもよかったと思っている。この後に検討する男性の地域参加に関連することもあると思い、今回紹介させていただいた。

(高良委員長)

今、報告いただいた件について質問があったらお願いしたい。何か関わり合いのある方がいれば教えてほしいのだが、よろしいか。

生活支援コーディネーターは、住民の方を主体として行動しているのが基本だと思う。でも、実際にやると言ってもなかなか動いてくれないところもあり、そこに主体的に自主的にやろうとする鍵となるような方が出てきたのは本当に素晴らしいと思う。そういった機会をつくり、またもともとの梶野町ないまぜの会のメンバーをどういうふうに選ばれていったのか、全て意図を持って行動していると思う、そういうところが、新たに自主防災組織として活動する契機になっているし、基礎になっていると思う。ぜひこういう活動は継続していただきたい。同時に総合相談やケアプランが増え続けているのはどこも同じだと思うので、これに関してはぜひ居宅介護支援事業所にケアプラン作成等を委託する等々含めて、新たな体制を考えて少しでも包括の方々が生活支援コーディネーターとして活動できるような体制整備を行い、継続していければいいと感じる。

それでは、続いてみなみ地域包括支援センター、吉田委員からお願いしたい。

(吉田委員)

当圏域では築年数の古い幾つかの集合住宅で高齢化が進んでおり、相談件数の多い貫井住宅への関わりを通して地域の実態把握を継続している。その中でコロナ禍以降の高齢者の地域活動の減少が貫井住宅の課題として自治会や住民の声として上げられ、2層協議体や話し合いを重ね、複数の活動が始まっている。

その1つが包括、自治会、J K Kなどが協力して隔月で行う認知症カフェである。自治会には開催の周知協力と会場準備を一緒に行ってもらい、J K Kには年間の会場確保とスマイルアシスタントと呼ばれるコーディネーターの派遣をお願いし、時には室内ダーツなどのレクリエーションの提供協力もいただいている。4月の初開催から6月、8月と回を重ね、毎回20名以上の近隣住民が集まり、認知症についての理解を深めながらも高齢者の交流の場となっている。

また多世代交流、ICT活用の取組につながるものとして、5月29日に行われた光明第二保育園とのZ o o m交流会が上げられる。コロナ禍以前はお互いに交流があり、交流自体は高齢者と子供達の双方にニーズがあるが、コロナ重篤化のリスクが高い高齢者は、不特定多数の園児からの感染リスクがあるため、いずれは対面での交流をと願いつつも市介護福祉課が貸し出ししている通信機器を活用してオンライン交流を再開した。不定期な開催だが、今後は自治会と保育園が都度連絡し、自主的な開催ができるようにつながりをつくった。

その他、集会所でのさくら体操の自主活動が4年ほど前からなくなり、復活を求める声を拾い、話し合いを重ね、団地住民だけでなく地域の方も参加できることも視野に入れ、8月から毎週金曜日の午前中にさくら体操の自主活動が始まっている。

コロナ禍以降、時間をかけて自治会住民との話し合いを重ね、変化する地域ニーズ、感染症への不安や、自治会役員の高齢化による人員不足で活動を増やせないなどの事情も勘案し、当事者のペースに合わせて行うことで、ようやくこの上半期に複数の継続した地域活動の立ち上げにつなげることができた。

次に、通いの場の活動支援について、一昨年からは始まった圏域内のサロンリーダーの連絡会が四半期定期開催と定着している。この間に男性がリーダーを務めるらしくサロンが加わり、毎回サロンの参加者の困り事や介護予防リハビリ活動、男性の社会参加などのテーマを持ち、意見交換をして、2層協議体としての役割も担っている。横のつながりがサロンリーダーの活気づくりにも役立っている。今年度はサロン合同企画として市のリハビリ活動事業を活用した多磨霊園のホールウオークを11月11日に計画しており、リーダーからサロン参加者まで交流の機会を拡大して、横の

つながりの強化を進めている。

その他情報発信としては、今年度も包括からの積極的な情報発信として隔月で2,000部発行する地域包括ニュースなどを発行して啓発している。他には自治会の敬老記念品のお届け時に包括周知ポストカードを配付する依頼など、自治会・町会などの地縁組織の関係づくりのために、回覧・配付協力依頼を継続的な取組として行っている。

各包括で取り組み始めたLINEでの情報発信は、現在、登録者が157名を数えており、包括からの案内にとどまらず、各情報を提供して、高齢者本人ばかりでなく、遠方に住む家族、ケアマネージャーなどにも登録参加いただき、高齢者とのコミュニケーションに使ってもらえればと考えている。

最後に、後ほど検討するお金に関する啓発事業の補足として、初回に行った昨年12月の朗読劇の内容だが独り暮らしの方で、近隣に家族ありのお困り事の話、今回7月は高齢世帯夫婦のお困りの話、次回10月は身近に家族の少ない独居高齢者の話とした。

この間のシナリオを見た方から、初回、2回目の話の内容は相談できる家族がいる恵まれた環境の話だが、多くは独居で相談する家族がいない方が多いとの話を聞き、啓発ターゲットを広げる意味も込めて3つのシナリオを書き下ろした。

また、初回は「ちむどんどん」、2回目の作品は「小金井らんまん」、次回作は「小金井ブギウギ」と、シニア層で身近な連ドラを連想し、内容も楽しく身に入るような要素も入れており、今年度の下期以降の啓発においても高齢者が親しみやすいシナリオ作成に取り組む予定である。

(高良委員長)

今、報告いただいた活動に関わりがある方がいれば補足いただきたい。

何か質問はあるか。

(鈴木委員)

みなみ包括では貫井南住宅にかなり協力している感じを受けたが、COCOバスの不満やそういう話を聞くことはないか。

(吉田委員)

COCOバスに関しては、春からダイヤが変わったことで、公共施設や中心街へのアクセスに関して困ったという声はいただいている。住民の方ばかりでなく、貫井南公民館へのアクセスも少し悪くなったということで、他の地域の高齢者の方からも声はいただいているが、代替の手段をなかなか提案できないのが現状である。

(高良委員長)

COCOバスの時間が変わったのか、それともルートが変わったのか。ルートが変わったのは何か理由があるのか。

(平岡高齢福祉担当課長)

やはり採算が取れる持続可能なコミュニティバスの運営体制というところで、担当の所管課も市民説明会や地域の方への説明会を開いて、このようなルートの整備をしたと聞いている。

(高良委員長)

確かに、どうしても継続しなければいけないことを考えればそうなのだと思う。

一方で、最初からなければいけない工夫していたと思われるが、今まであったものがなくなってしまうのは生活に影響があると思う。具体的なところを市交通対策課にCOCOバスに対しての声を上げる必要があると思う。担当課はルートが変わったこと

による実際の影響を把握してないと思う。そういった意味で何らかの形での対応も検討する必要性はあると思われる。把握している範囲で影響がどのくらいあるのか集め、声として上げることが必要だと思う。他にこういう声があると御存じの方や、困っているなどの話があれば聞きたい。他には、浜名委員。

(濱名委員)

C o C oバスの件だが、東ルートは東町一丁目の奥のまで入るようになり、その点はよかったが、東小金井駅に戻って、次に発進するまでの間バスから降ろされて15分くらい外で待たされる状況がある。以前は止まっても発車するまでバスの中で待っていた。現在は夏の暑い中に一旦降ろされ15分もそこで立って待つのはつらい状況である。バス会社の事情もあるだろうが、15分も外で待たせておくのもどうなのかという声がある。

運転手にもう一度乗る旨を伝えておけば、支払いは不要だが結局ロータリーの一角にバスが待機しているのに降ろされてしまい、バスへの乗車は発車まで待ってくれと言われる。バスが近くで止まっているのなら、乗せておいてほしいと思う。

(高良委員長)

そういった意見も所管課へ連絡していただきたい。他にもC o C oバス関連で話を聞いたことがある方がいたら、後ほど事務局に連絡してほしい。

みなみ包括の話に関して、LINEを私も登録している。毎回っぱいの情報が来る。いろいろな活動がすぐに分かるし、台風などのときにも連絡が来るので、特に独り暮らしの高齢者の方々にとっては心強いと思う。

お金の管理の啓発の朗読劇のシナリオを書き換えたということだが、その朗読劇はどこに行けば見られるか。一度声をかけていただき、ぜひ見せていただきたい。

(吉田委員)

次回のお金の管理に関する啓発は10月26日木曜日に東町センターで行う。

(高良委員長)

もしかしたら行けるかもしれない。チェックしておく。

サロンリーダーの交流は以前からリーダーの方たち、鍵となる方たちが集まって交流することによって定着し継続する。活動もより広がるネットワークができるという意味でとてもいい活動だと思う。

続いてひがし地域包括支援センターの高橋氏、よろしくお願ひしたい。

(高橋氏)

生活支援コーディネーターの金子委員が都合により参加できないため、代理で報告する。

活動の立ち上げ支援と活動の協力の視点に関して報告する。

まず活動の立ち上げ支援についての報告だが、2つの団体の活動支援に携わった。1つの団体は小金井さくら体操の自主グループになる。東小金井の駅前にあったクリーニング店が閉店して、店舗を地域のために使ってほしいということで活動の場所になった。その店舗が空いている声をもらい、一方では地域でさくら体操をしたいという声があったのでマッチングをした。

ただし、立ち上げに当たり会場費がかかることが課題となった。そこで2層協議体を設けて、会場費について社協のサロン事業の活用を検討したが、申込みが遅くなり助成を受けることができなかった。そこで社協の担当者に相談したところ、別の助成金の案内を受け、助成金を頂くことができた。活動していく中で、年間で計算したときに助成金だけでは会場費が不足してしまうことが分かった。その会場費について参加

者と話し合いをしていくと、自分たちも参加するのだからということで、会費制の形で会の継続ができるようになった。話し合いを通じてその場所で何ができるのか、考えるきっかけになりよかったと思う。

もう一つの団体に関しては、昨年度末で会が終了したピアサロンの立ち上げ再開支援に関してだが、長年週2回行われていたサロンがなくなり残念だという声が出てきた。何とか再開できないかという話もあり、再開ありきではなく、まずは同窓会を行った。これまでサロンを行っていた会場近くの喫茶店を使って顔合わせの会を行った。そうしたところ、やはりいいよね、これからも続けたいという話になった。また秋口に顔合わせをして具体的な話を進めようということで、細々とつながっていく形で、今後、継続的な立ち上げができればと考えている。

もう一つが活動の協力として、きた包括同様、コロナが5類になった関係で地域から声かけをいただく機会が増えてきた。ある団体からは改めて包括の紹介をしてほしいとか、認知症について理解を深めたいので講座を行ってほしいという話があり出向いた。限られた人数ではあったが、改めて学びを得ることができたという言葉をいただいた。それとともに、会の主催者からは他の団体はどんなことをしているのか聞いてみたいという声があった。何年か前にひがし包括のエリアの団体が集まって、他の団体がどんな活動をしているのか知る場を設けたことがあったので、今後同様の活動ができないか、金子委員を含めて検討を始めている。地域の方とつながることで新たな発見になるし、声を生かしていきながら次につながるきっかけになればと思い活動していきたい。

(高良委員長)

何か補足、もしくは質問があったらお願いしたい。

(石塚副委員長)

先ほどのピアサロンの話で、同窓会を行った場所はウエストだと思うが、ウエストもこれからをどうするかという話があり、多分聞いていると思うが、店を閉めるか、別の方に経営を移すかなど話が出ている。そこら辺がどうなるのか気になる。我々も情報を共有できればと思うので、よろしくお願いしたい。

(高良委員長)

せっかく同窓会を開催してやり始めようとしているところなのに、ウエストのような場所が一度なくなってしまうと新たな場所を探すのがなかなか大変だと思う。同窓会のような軽い感じで始めるのはとてもいい方法だと思う。同窓会の時にもう一回ピアサロンを再開しようとならなかったのは、どんな要因があるのか。

(高橋氏)

誰がリーダーシップを取るのかと、開催の頻度について色々な意見があり、取りあえず数か月後に顔合わせをしてまた考えようという話になった。

(高良委員長)

活動の鍵になる、中心になる方が1人でやるのは責任が重い、何かあったら困るからということで二の足を踏むことが必ずある。そのときには他の方と一緒にやっていくとか、生活支援コーディネーターがサポートするような形で進めていくなどいろいろなやり方があると思う。そのちょっと背中を押すところが難しくもあり、でも一番そこをやっていないと活動の主体になってくれる方は増えていかない。

また、団体で交流するのは、先ほど吉田委員から話しのあったリーダーの定期交流と同じで、やはり団体間をつなげていくというのは、広がりが出てくるし、定着するという意味においてもいい活動だと思うので、今後も続けていってほしい。

それでは、最後になるが、にし地域包括支援センターの久野委員からお願いしたい。

(久野委員)

活動報告の資料をご覧くださいながら聞いてほしい。6月6日の本町住宅けんこうサロンについて、本町住宅は大きな団地で、そこで大体月2回けんこうサロンを行っている。サロンではさくら体操や口腔体操、ちょっとしたゲームを行っている。大体10人もいないぐらいの団体で、和室の部屋の20畳弱ぐらいの広さの場所で活動しており、包括の生活支援コーディネーターも手伝ってサロン運営をしている。

そんな中、少し前に本町住宅のお掃除をしいる80代の男性の方が特技として安来節ができるということで、ぜひその活動団体で披露したいと申し出をいただき、内容など色々と調整して実現した。コロナ前は色々なところで披露していたそうだが、その機会がなくなって寂しく思っている中で、掃除をしていたときに本町住宅のサロンが定期的開催しているのを聞きつけたそうだ。口コミで19名参加して、その中には新しく来た方が4、5名いた。イベントを行うと倍ぐらいの集客があり、安来節が明るく楽しく実施できたのでよかった。

それを受けて、たまにイベントを行うことが大事ではないか、高齢者も来やすいのではないかということになり、以前から交流のあった保育園児との交流を企画し、何回か打合せをして今週の火曜日にボッチャを行い、交流会として盛り上がった。楽しい交流ができて高齢者の方も喜び、定期的にやりたいという意見もあったが、園児たちの体調や園のいろいろな行事があり、あらかじめ日にちを決めて行うのは難しそうなので、その辺りは調整が必要なかもしれないが、今後も何かの形で関われば良いと考えている。

ただ、安来節が特技である80代男性の方も、自分がそのときだけぽっと出て披露するのはいいが、その会をリードしていくことは難しいということがあり、どこでも起こり得る課題だと思う。サロンに来る方たちは80代後半から90代の方が中心で、にし包括支援センターが出来た15、16年前はそのメンバーの中でリーダーシップを取っていた方だ。その方が今は高齢化してきて、リーダーシップが取れないので包括がサロン運営を支援しているのが実情である。

10月末ぐらいに社協で、昨年ファシリテーター養成講座を受講した方たちの連絡会があると聞いたので、そこに私たちが出向いて少しマッチングというか、実際にけんこうサロンを見ていただき、サロン運営を中心に行ってくれそうな方の発掘に行こうと思っている。そういったことを企画しているのを活動報告とさせていただく。

(高良委員長)

保育園児との交流は人気がある。これはぜひ出来る団体で実施してほしい。まだコロナの感染が心配なところではあるので、そこを補いながら継続して交流していただきたい。

またリーダーの方の高齢化はどれもそうなのだと思う。リーダーが辞めたことによって、運営の継続が難しい団体に対しては、社協との連携が必要だと思う。

いかがか、ファシリテーター養成講座を終えた方の中からこういった活動を主になって実施してくれそうな方はいるのか。

(石塚副委員長)

ファシリテーター養成講座修了生の方もコロナ禍で集まる機会をずっと失っていて、本当に久しぶりに今回連絡会を開催するので、今、参加者を募っているところである。以前からの方がたくさん参加してくれるのか、新しい方がたくさん来るのか分

からないが、いずれにしてもここから1つ仕切り直しと思っている。地域の活動に非常に興味を持っている方々が参加しているので、うまくつながっていけばいいなどは思っているが、そこは話のもっていき方や、進め方をしっかり考えていかなければいけないとも思っている。今度は開催した雰囲気を見て、いい形にできればと考えている。

(高良委員長)

確かにコロナで今までの活動が全部休止や中断になる状況からようやく戻っていかうとしている中で、今まで活動してきた方やまた興味を持っている方たちが、また戻って活動しようとか、始めようという契機をしっかりとキャッチして活動に結びつけていざだきたい。連絡会等に生活支援コーディネーターの方も参加するのは、その後のことを考えても必要だと思う。

それでは、全体を通して以上の報告について何か確認したいことがあればお願いしたい。

(石塚副委員長)

J K Kスマイルアシスタントとの関わりについて、J K Kでスマイルアシスタントを都内全体で10人配置しており、J K Kの集会施設を使って住民を中心とした形で活動を増やしていきたいと言っている。J K Kの住民の方だけではなくて、あくまでも住民を中心とした地域の人たちも含めてよいという話を聞いているので、場所という意味でも非常に活用できると思う。給湯施設もあるし、バリアフリーに近い形で使えるところもあるので、ぜひそういう場所を活用していただきたい。

(高良委員長)

ぜひこういう方々と協働しながら、そして建物の中にある共有施設を活用できるようにしていくのは必要だと思う。

ほかにいかがか。

それでは、⑤番に移っていきたい。「お金の管理に関する啓発について」を事務局から説明をいただきたい。

(事務局)

お金の管理の啓発についてパンフレットが完成した旨の報告をし、そのパンフレットの配布や配架について報告した。啓発事業として住民の方にも協力いただき、公民館南分館で朗読劇と意見交換を実施した旨の報告や出前講座や市内公民館での啓発事業や公民館主催事業で今後もお金の管理の啓発事業を行う旨の報告をした。

続けて、出前講座についての補足説明も行った。

(高良委員長)

この報告に関して何か質問や補足等があればお願いしたい。よろしいか。

お金の管理については、この協議体で地域課題として認識し、その後、東京都の補助を使ってのプロジェクトで検討していき、このようなパンフレットが出来た。また、報告にあるようにいろいろな形で市民の方にも伝えていくということで、着実にできて、また成果としても明確に見える活動だったと思う。

ちなみに公民館の北分館は学芸大学に行くところの施設か。イトウ氏は私の教え子であり懐かしい。その後もいろいろと関係を持っているが、すごくバイタリティーあふれる方なので、ぜひ一緒に頑張っていたきたい。

(久野委員)

11月26日に行う公民館北分館主催事業には、にし包括支援センターはおひざ元なので参加させてもらう。演劇のキャストではなく裏方としてファシリテーターのよ

うな場面があるときに協力させていただこうと思う。今日、イトウ氏とも打合せをしてきた。

(高良委員長)

吉田委員は原作にかかわっているのか。

(吉田委員)

今回の劇の元を作ったということで、若い方たちが話し合いながら芝居をつくる中に一緒に入ってほしいと言われて、出演者の1人として参加をする。

(石塚副委員長)

お金の管理編のパンフレットができて、権利擁護センターではこの先のことを考えていかななくてはいけないという現状が幾つか出てきている。

まず大きな問題がキャッシュレス化である。通帳もない、インターネットやスマホ上でしかお金の管理ができないような状況がある。現状として各金融機関は現金取扱いの振込等の手数料額を上げており、まさにネット上でお金の管理を行ってくださいという流れが出てきている。今、市でもスマホ講座を行っているが、より一層高齢者でもネットやスマホが便利に使えるようになってくる。そうすると今度は周りの人がそれを管理するのが難しくなってくる。パスワードの管理や通帳を預かることでできた支援ができなくなる現象がもう既に起きている。それがこれからどんどん進んでいくだろうと考える。自分でお金の管理ができなくなったときの金銭管理をどうすればいいのかについて、つい先日地域福祉権利擁護事業を行っている東京都社会福祉協議会と東村山市社協と一緒に連絡会を設けて話し合いをしてきた。具体的にそういう課題が出てきているので、より家族が把握しにくくなることもあると思う。対策といってもすぐに出てきていないが、そういった課題がもうすぐ目の前に来ている。

こういったことを踏まえながら、例えば後見申立をする場合に現場として通帳の冊数等で調べることができたが、スマホなどで管理する口座については、スマホのパスワードの解除やどこに口座があるのかなど話にもなり、本人にとって便利になればなるほど、今までできていた権利擁護事業や成年後見制度の相談が簡単にはできなくなると想定される。そういったところでは皆さんとも共有しながらやっていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

(高良委員長)

色々変わっていく状況に、どのように対処していくのかは、できる限り事前に考えなければいけない。お金の管理に関しての啓発は必要なことで、そういう状況になってもこういう口座があると分かるようにしておくなど、啓発等で予防し、今後の協議体でもキャッシュレス化に関してどのように対応していくか等の土台を考えておく必要性もあると思う。

何かこれについて補足等があればお願ひしたい。

では、⑥番に移りたい。「個別課題抽出の中間報告」ということで、資料4になるが、事務局から説明をお願ひしたい。

(事務局)

資料4の説明とともに、個別課題抽出の中間報告については圏域ごとにどのようなことを課題認識して活動しているのか、ひいては俯瞰的に見て市として各地域の課題はどうゆうことが多いのかなど、全体として取り組む方向性を考える参考にするための資料と説明した。

(高良委員長)

包括の方々から何か補足があればお願ひしたい。

地域によって特徴がある、例えばきた包括だと情報やその他が多いが、みなみ包括だと移動支援などが多い。

(松村委員)

ちょっとした困り事ではない場合には載せていないことがある。ちょっとでは済まないで、情報提供で済んだケースだけを載せた。

(高良委員長)

それによって結果も変わってくるのか。

(松村委員)

ちょっとした対応で済まないものは総合相談として対応するので、この報告には含まれていないケースが多々ある。

(高良委員長)

これはあくまでも個別課題抽出のちょっとした課題ということか。ちょっとした課題に対しての分類ということではよろしいか。ちょっとした課題なのか、総合相談の報告に含めるのかを判断する基準は難しい。この報告に掲載する基準についての擦り合わせは連絡会等で行っているという理解でよろしいか。

それであれば1回しておいたほうがいい。ちょっとした困りごととして、この報告に載せるかどうかのある程度の判断基準を持っておくと、分析するときにはちゃんとしたデータに基づいての分析ができると思う。

ほかに何か確認したいことはあるか。

それでは、これで報告事項を終えてもよろしいか。

(4) 検討事項

高齢男性の社会参加の促進について

(高良委員長)

続いて、検討事項に移っていきたい。

以前の協議体で高齢男性の社会参加が難しい事例があり、それによって孤立してしまい、ゆくゆくは重篤化した状態で問題が生じているということで、いろいろと事前にアンケートを行い、インタビューをしている中で今に至っていると思うが、その点を含めて事務局から説明をいただき、資料5に基づいて今後の進め方についての提案をいただきたい。

(事務局)

前回協議体で検討されてきた経過を説明するとともに、男性のニーズを把握するためのアンケートを実施し、前回協議体でアンケートの集計結果を示したことを確認。

次に、現状として活動に参加しなくても、男性はどのような場所、どのような場面で役割ややりがいを感じるのか、アンケートからでは見えてこない部分について多くの男性が活動している団体へヒアリングを行った。ヒアリングを行う中で、各活動団体のそれぞれ課題があることが分った。また一方で女性より男性参加者が多い団体もあり、世代交代、次の担い手がないという課題も出てきた。一方ではそういった世代交代がうまくいっている団体があることも分かった。また、中には女性を増やしたい団体があることも分かった。

男性の地域参加については、本人が退職後に行くところややりたいことを見つける必要があると考える。本人が自らの意思で活動に参加するか、地域のつながりを作ってもらえることが大切であると気づいてもらうため、この課題を解決するには地域で

取り組む必要があると考える。ヒアリングを行い連絡会で話し合いを重ねた中で、課題を共有しどう行動するかを一緒に考えてくれる団体と協議したほうが良いという声で一致した。

そこで市からの提案だが。資料5をご覧ください「解決の糸口を探るための場」と書いてあるが、一緒に協議していく場、プラットフォームづくりを目指したいと考える。

また資料5-2は大田区の社協でこういった話し合いの場のプラットフォームづくりをした事例があったので参考資料としてご覧ください。

大田区の社協で行った「助けあいプラットフォーム事業」について概要を説明し、それを小金井市版に当てはめて考えてみたいと説明した。市としては活動団体者同士の顔の見える関係性づくりを基本として、地域の課題解決に向けて連携しやすい環境をつくり、男性の社会参加促進について多様な主体の課題解決の糸口を探るための場の設定について提案したいと伝えた。

(高良委員長)

具体的な提案に入る前に、まずはここまでのところで何か質問があったらお願いしたい。

今回の課題認識の中で仕事を退職して、その後は地域の中で活動しないで、家庭の中で孤立している状況の高齢者の方に、そうなった背景やニーズを把握するために直接アンケート等で聞き取ることは難しいということになり、実際に活動されている男性の方に対してアンケートを実施し、かつ実際に活動している団体の方にヒアリングした形になっている。また団体へのヒアリングの中で見えてきた情報として活動内容や課題認識があるが、市としてはいろいろな課題がある団体の方々と情報の共有をしながら認識を共有していくという意味でもヒアリングをすることは意味があると思うので、ヒアリングを続けていることになる。

そのうえで、この市からの提案については連絡会で包括の方々はもう既に話し合いをしているという理解でよろしいか。

活動されている団体のそれぞれの課題がある中で、特に今回は男性の社会参加の促進という共通の課題認識として話し合いを行った上で、具体的にどうしていけばいいというような解決の糸口を探るための場を設定していく形になるがいかがか。

では、続いてステップ1、ステップ2の最終目標のところまでご説明いただきたい。

(事務局)

資料5の「市からの提案(目指す取り組み)」のステップ1として、課題解決の糸口を探るための場、いわゆるプラットフォームをつくるための準備会、勉強会の実施を4回程度行おうと考えている。この際のテーマは男性の社会参加の課題になると思われる。4回の勉強会で検討する内容については、大田区の社協が行ったテーマをそのまま活用したいと思っている。

1回目では、目的の共有とお互いの活動を知る目的で、話し合いの場の趣旨説明とそれぞれの自己紹介、活動内容について、お互いを知るところに重点を置きたい。

2回目については、各団体が抱える課題の共有に焦点を当て、活動で困っていること、取り組みたい活動などを話し合い、なぜ困っているのか、どう取り組みたいのか、その背景も意識して課題を共有したいと考える。

3回目は見えてきた課題の掘り下げを行っていく予定。2回目が出た課題を整理・分類して、課題ごとの本質を探るため、なぜそのようになっているのか課題の掘り下

げを行っていく。

4回目は最終的に連携して取り組めること、できることを考える。課題の本質を探ったことで、明らかになった課題を基にみんなで協力できること、プラットフォームでできることを考えていければと思う。

ステップ2はステップ1を経て、もっと話したい、こういったプラットフォームがあったらいいという声が上がれば、一定期間の課題解決の糸口を探るための場の本格始動という形に持っていきたいと考える。

最終目標は、多様な主体が協力して地域の課題を解決できるように地域力を高めていければと考える。またこのような話合いの場を通して各主体ができることを考えていけたらと思っている。

(高良委員長)

具体的な内容についてはまた検討することになると思うが、男性の社会参加を促進するにはどうすればいいのかという検討課題を設定したうえで、この課題解決の糸口を探るための場という形での話合いを進めてはどうかという提案について御意見をいただきたいがいかがか。

(石塚副委員長)

ステップ1の準備会、勉強会の実施というところだが、今想定している勉強会に集まっていたく方たちはどういう方をイメージしているのか伺いたい。

(事務局)

連絡会で話合いを行い、2層コーディネーターから男性が多く集まる団体の候補を上げてもらっている。具体的に言ったほうがいいか。

(石塚副委員長)

いえ、大体のイメージをつかめていればいい。

(高良委員長)

質問があったようにどのような団体に参加してもらうかは非常に重要なポイントだと思う。男性の社会参加に課題を置いたときに、男性が主体の活動団体のみに限定するのか、それとも女性の方々が主体の活動団体にも参加してもらうのか、男性の方に参加してもらいたい団体にも声をかけるのか、どのようにしていくのかは検討すべきことだと思うので、議論いただきたい。よろしいか。

社協として、これまでの活動から考えて、このような課題について話し合いを持つのであれば、どこまで当事者意識を持っている方の団体にするか。あとは参加してもらった団体数にもよる。あまり多すぎても困るし、少なすぎてもあまり意見が出てこない、この辺りが難しい。今のところ男性だけの活動団体はいくつ出たのか。

(事務局)

今、候補に上がっている団体は男性だけではなく男女いる団体が多く、男性だけという団体はあまりない。

(高良委員長)

でも、この前はどこか男性だけの団体の名が出ていたと思うが。

(松村委員)

みどりセンターで活動している男性のための調理クラブは男性のみである。

それ以外存じ上げない。

(高良委員長)

1つ出たが。

男性だけの活動団体を御存じの方はいるか。他に出ていなかったか。

(吉田委員)

シニアSOHOも女性が若干いる。

(事務局)

らくビットにも女性はいる。

(吉田委員)

らくビットは80%が男性という構成である。

(高良委員長)

では、主になっている人たちが男性の活動団体はあといくつあるのか。

(事務局)

シニアSOHOや、クリスタルが考えられる。

(高良委員長)

他に思い当たる団体はあるか、鈴木委員はいかがか。

(鈴木委員)

全然違うかもしれないが、神社とかは男性だけだと思う。

(高良委員長)

神社というのは、神社の構成員ということか。

(松村委員)

氏子会。町会、氏子会は男性中心である。

(石塚副委員長)

祭り系とかそういうものは男性中心だと思う。

(高良委員長)

継続的に活動しているものではなく、氏子としての活動ということか。

(松村委員)

お祭りのほかに年末年始の掃除をしている。

(高良委員長)

これは活動団体の中に一緒に入れるべきなのはまた考える必要がある。

(石塚副委員長)

小金井はそんなに活動が活発ではないとは思いますが。

(吉田委員)

笠森神社の清掃は氏子会が毎週行っている。

(松村委員)

梶野町の杵島神社の氏子会も結構活動している。

(高良委員長)

神社関係は別として男性中心の活動団体が3つあるということか。そうしたらその3つの活動団体だけでいいのか、それとも他にもっと神社関係の氏子会まで広げていくのか、それとも女性中心の活動団体だが男性に入会してもらいたい課題認識を持っている団体も含めるのか。活動団体としては同じような課題認識を持っていないと話し合いが難しいと思うが、課題認識を持っている団体がどれだけあるか把握しているのか。それを把握するのは難しいと思う。

(事務局)

男性を増やしたいという思いを持っている活動団体はいるはずである。男性がいたら楽だとか、男性がいることによってうまく回る認識を持っている活動団体はたくさんあると思われる。潜在的にあって、我々が気づいていないだけだと思う。

(高良委員長)

そうなると今回この場を行う際には各活動団体の課題認識を吸い上げようと思うと、各活動団体に課題認識を全部聞いていきながら、全部それらを入れ込むという形になると、ワンクッション作業工程が出てくる。つまりこういう話し合いの場を行うに興味のある活動団体はないか、男性に入ってもらいたいと思っている活動団体はないかを聞いていく必要があり、それに賛同する活動団体がどれだけあるのか、どのくらいの規模になるのかなどが分からない状態で始めなければいけない。

分やりやすい方法として、例えば男性中心で活動している3つの団体を中心としながら、最初に準備会で顔合わせをしてもらい、その中で、各団体の課題共有や各団体の価値感等の共有をしていくところから始めて、そこから話を広げていく方法もあるがいかがか。本当にやるならば、そちらから始めたほうが楽なような気がする。いきなり大々的にやっていくのは大変だと思う。

さらに3つの男性中心の団体に参加してもらうときに、各団体の誰に話し合いの場へ出てきてもらうか考えておく必要がある。いろいろな方で、誰でも出たい方何人でも来てくださいますのか、それとも代表の方だけと限定するのか。また、代表者だけとした場合には3人だけで話をすることになるので、あまり話は盛り上がらないと思われるので、議論は深まらないと思われる。この辺りはいかがか。

(石塚副委員長)

今、高良先生が言ったとおりで、その話し合いの場をどのくらいのボリュームにして行うのかということで若干内容や、その先の話も変わってくる。各団体から1人だとその方だけの意見で、その団体を代表した意見なのかどうか危うい部分があるので、少なくとも2人ずつ、そうすると6人ぐらいにはなる。それ以上多くなってしまうと今度は話がまとまらなくなるので、限界はそこかなと思われる。

(村松委員)

その3つの団体には既に話しをしていて、参加いただけるめどが立っているという理解でよろしいか、それともこれから話しをするのか。

(事務局)

今、シニアSOHOのみヒアリングは終わっており、このような話し合いの場について協力いただけるかに対しては、前向きな意見をいただいている。

(松村委員)

あとはクリスタルと翁味会か。

(事務局)

クリスタルはこれからで、連絡会での話し合いでは翁味会は呼ぶ団体に入っていないかった。

(村松委員)

翁味会ではなくて。

(吉田委員)

らくビットか。

(事務局)

らくビットとシニアSOHOは一緒である。

(吉田委員)

類似しているという団体で別というか、らくビットはシニアSOHOから生まれたグループという認識である。

(事務局)

別として考えると連絡会ではらくビットが女性を増やしたいと言っていた。

(吉田委員)

いや、らくビットは今、男性が80%で、男性の社会参加を最初のテーマとして活動していると言っていたので、現状は特に課題認識としてはしていなく、今の状況でいいみたいな感じだと思う。

(事務局)

らくビットの大橋氏以外の実態がちょっと見えていないのだが。

(吉田委員)

らくビットは、シニアSOHOを立ち上げたメンバーのうち、大橋氏が中心になり、オンラインを使って、例えば小型のパソコンのプログラミングの話や、子供たちのプログラミング教育を行っている活動団体である。大橋氏に合わさって何名かの方が一緒にリーダーとして活動している団体と理解している。

ただ、残念ながら大橋氏が体調の都合で、オンラインでしか会議に参加できないと言っていたので、もしこういった形で話し合いを行うとすれば、ここ1年間くらいはオンライン参加の会議出席になるかと思う。また、ほかのメンバーは結構忙しいという話を聞いている。

(松村委員)

今、菊地原氏から話があったようにクリスタルにはまだヒアリングができていない状況、自分が菊地原氏からの依頼で日程調整等を夏前からしているが、毎月2回市内公民館を使って自分たちの団体だけでなく、市民に開放された講座をやっているので、とにかくその企画の会議で忙しく、協力したい気持ちがないわけではないのだが、なかなかヒアリングを行う時間も捻出できないので、ヒアリングできえ実現できない状態である。特に運営に困っている様子もなく優秀な方がとても多いので、意義は理解いただけると思う。また、話し合いの場をまずは4回行うとしても4回の頻度がどんなペースか、その日程調整等で物理的に難しいと言われる可能性があると思った。3つの団体にしか声をかけず、クリスタルの参加が難しくなったときにはどうしたものかと心配になる。

(高良委員長)

話を伺っているとシニアSOHO、クリスタル、らくビットと3つの活動団体の他に先ほど村委員が言っていた男性のみの会。

(松村委員)

翁味会。この活動団体は50名くらい会員がいる。もう30年以上続いていて、非常にしっかりした組織で、世代交代がうまくいっている団体である。

(高良委員長)

今の話から4つの団体になると思うが、それぞれの活動団体の事情を知っている包括の方々からの話だと、寄り集まって話をするはなかなか難しそうに感じる。この4つの活動団体は成功要因を教えていただく対象と考えればいいと思うが、そうすると課題認識の共有する形の話し合い場を持つには適した団体ではない印象も持つ。

そういう意味においてこの4つの活動団体から聞き取りしていくのも難しい状況だと思うので、まずは各活動団体にヒアリングをして、生活支援事業として男性の社会参加に対しての課題があると考えている。社会参加ができない男性の方たちがいるという状況もある中で、うまく行っている成功要因をヒアリングしてもらい、それを基に今後どうしていけばいいのかを考えるのも1つのやり方だという気がしている。

本来は市から提案があったように活動団体の方々や実際の当事者の方々が、課題認識を持って一緒に検討していくのが一番いいやり方だと思うが、実際に話し合いに参

加していくのが難しいと思われる。事前にヒアリングを行い、うまくいくための要因を整理した上で、どう生かしていくか話し合うときに、男性の周囲の方々にも入ってもらい、意見をいただく場を設けることによって、その話し合いに参加してくれる男性の方々の中で鍵になって動いてくれそうな方々を見出していき、その方々といろいろな活動を広げていくとか、別の形で地域住民の方々が参加いただく方法もあると思うがいかがか。

(吉田委員)

この資料5-2にある大田区の社協のプラットフォームづくりに関しては、もともと子供の学習支援をするために子供の課題を共有する場ということでプラットフォームをつくっていて、そのプラットフォームに参加したのは子供のことに関わっている者ばかりではなく、地域包括や各地域のキーマンとなるような方たちで、子供の実態を知らない方たちに参加してもらっている。

事前に学習会を開いて、そこで子供の課題と各団体の立場で、お互いの視点の違いを学んでいくことによって、子供の課題を共有していく、自分たちに何ができるのかというスタートラインまでをつくり、翌年度から子供の課題に関しての話合いを始めているところかというと、非常に多様な立場の方たちが学びながら参加しているので、例えば男性の社会参加というテーマだけで終わるのではなくて、この後も高齢者の課題などを話し合えるプラットフォームとして存続できるようなつくりをしている。子供のことを話し合えるプラットフォームづくりをここではしていると思うので、そこまでのことを考えてまずやるのか、それとも端的に男性の社会参加のことを話し合うためのプラットフォームをつくるのかは資料5からでは読み取れないので、どう組み立てていくかを決めてから構成を考えていかないと少し難しいと感じる。

(高良委員長)

その点についてはいかがか。

(事務局)

今回のプラットフォームづくりについては男性の社会参加を検討する場として考えている。恐らく話をしていく中で、この大田区の子供の課題を共有する場についても、プラットフォームはこのテーマについて2年で終了している。新たな課題については新たなメンバーで集まって同じステップを踏んでこういった場をつくっていくやり方をしているので、同じテーマでずっと同じメンバーで継続した話し合いを行うことは考えていない。

(高良委員長)

大田区の事例と大きな違いがあると感じるのは、結局子供の問題は子供が経験しているものだが、主体が集まっているわけではない。当事者として、子供の問題に興味のある大人の立場として話し合いを行っているところが大きな違いだと思う。

今回は男性高齢者の方たちが当事者として集まって話し合いをしていくので、それが悪いわけではないが、そういう枠組みになったときに、当事者としての話し合いと子供の問題としてあまりよく分かっていない人たちが勉強会から集まって話し合っていくという構成の仕方と違いが出てくると思う。ここも含めて考えていかなければいけない。

実際吉田委員が言ったように最終的なところとして、もっと広く小金井市のいろいろな、例えば高齢者に関連するような課題に関して検討できるようなプラットフォームをつくっていくような長期目標をつくり、まず始めとして男性の高齢者の社会参加のところから検討していこうとしたら、男性の参加者の団体だけではなくて、もっと

幅広く興味を持っている方や、いろいろな関連する活動団体の全部に声をかけながら一緒に話し合っていくのもありだろうという気はするが、これはかなり壮大なことになるので、本日の活動報告などを聞くだけでもすごく忙しくなり始めている状態の中でどこまでできるのか、余力はないと思われる。理想はもちろんあるが、現実問題どうなのかなども勘案すると、壮大なプラットフォームづくりは難しい気がする。

そうなるとう男性の社会参加の促進を考えたらどういものが必要のか、活動できることをやっていかざるを得ない気がする。他の方法として、ヒアリングを行っていく形になる気がする。

(吉田委員)

ヒアリングとプラットフォームづくりとのハイブリッドのような形になっていくのかもしれないが、前回9月13日に菊地原氏も参加したサロン連絡会においては、男性の社会参加を1つ小さなテーマで開催した。参加した4団体はらくビットから生まれた男性が中心のらくらくサロンというグループと、さくら体操から生まれた女性の人たちが中心のグループ、それから自治会の地域活動から生まれたサロンと、あと社協のボランティアグループから生まれた女性が多い活動をしている団体で、話し合いの中では今の状況でいいという団体や、男性も含めて女性が参加してほしいというような声が出た。その話の中でやはり各団体のもともとの根っこが違うという話があり、次回の連絡会では各団体の派生について事前にアンケートを取って、お互いの活動団体を知り合うことで更に深く掘り下げていくことで、それぞれの団体がなぜ男性が多いのか、または女性が多いのかということを深めていく場にしていく予定である。これはまさに今回菊地原氏や市が提案していたプラットフォームの段階を踏んでいる。だからそういうような部分において小地域でもできると感じている。

(高良委員長)

発言いただいたように結局特別にこれをやるというと負担になるので、すでに報告にもあったようなすでにある活動団体同士の交流とか、リーダーの方の交流、サロンやその辺りで今、話しがあったような高齢男性の社会参加に関連するテーマを基に話し合いができる素地があれば、その中で話し合いの場を作っていただく形を取るのはいかがか。そうすると実際に行っている活動の中でできるし、団体の方々も活動としてやっていることなので負担感はないと思われる。それでいながら同じような課題認識を持っている方たちであれば、それをテーマとして話をしていくことに関しては決して興味がないということもないと思われる。そういう話し合いができそうな場所は、吉田委員のほかの包括の方々、いかがか。そういうものができそうか、また機会はあるか。

久野委員、いかがか。

(久野委員)

心当たりはある。さくら体操を自主で町会が行っているところで、メインの方は元町会長の男性で、あとはほとんどが女性で構成される。その男性の方に誰かしら参加して欲しいところはあると思う。ちょっと出向いて実態把握というか、いろいろなことを聞いて、もしかしたらこれと同じようなニーズを感じているかもしれない。

(高良委員長)

それでは、ヒアリングのような堅苦しい感じではなく、それぞれ活動している方々と何らかの形で話を伺っていただきたい。常に関わりを持っているので、その中で男性の社会参加に関連することについて声かけをしていただき、活動団体の課題や、うまくいっている成功事例に関しての情報収集をしながら、状況に応じて菊地原氏にも

一緒に入っていたきたい。特に吉田委員が話をしていた活動団体同士で話し合いをする機会は、最も理想的な状況だと思う。一緒に話し合いに入ってその中で男性の社会参加についての考え方や課題について、提案するのをみなみ包括でまずはやってみる形で進めるのはいかがか。最も現実的だと思う。

まずは吉田委員には申し訳ないが、実践の場としてこの取組を行っていただき、菊地原氏と一緒に入っていたきたい。また、他の包括の生活支援コーディネーターの方にも男性の社会参加を頭の片隅に置いて、活動団体の方々と話をする際には声掛けをし、いろいろな情報を聞き取るなどするとともに、各団体の特徴や課題や、成功事例についての情報を連絡会等で共有しながら、次の協議体までに菊地原氏のほうでその情報を整理して、どういう形で進めていけばいいのかを次回の協議体で検討したいと思うが、いかがか。

現場で動いている状況を踏まえて活動ができればと思うし、クリスタルとか翁味会との関わりにしても、是非菊地原氏のほうで一緒に参加出来るような機会があれば、様子もわかり、うまくいっている要因を把握することもできると思う。このような進め方でいくことでよろしいか。

何か菊地原氏からあればお願いしたい。主になってやっていっていただくが、大丈夫か。初めの予定と変わってしまったが、大丈夫か。

(事務局)

もともとは圏域ごとで話し合いをしてほしいと連絡会等で話をしていたが、なかなか難しいという声があった。難しいのなら活動団体を集めて話し合いを行おうという話になった。去年行ったワークショップのようにできたらという夢のような理想を描いていた。各圏域では難しいという意見の中、たまたま吉田委員の圏域でサロン連絡会を2年ぐらい続けていてすごくいい形になってきたので、それを小規模な形で進めていけたら、いいモデルケースとして各地区や各圏域に広めていくのも1つの手法かと思う。吉田委員と一緒に頑張りたい。

(高良委員長)

吉田委員にはアクターから何から何までお願いすることになって恐縮だが、よろしくお願いしたい。

3 その他

次回協議体の開催予定

(高良委員長)

次回の協議体の開催予定について、事務局からお願いしたい。

(事務局)

今回は協議体の会場や日時等の連絡事項についての説明をした。

4 閉会

(高良委員長)

全体を通して確認や報告があればお願いしたい。大丈夫か。

次回までに吉田委員、菊地原氏を中心として頑張っていたきたい。それでは、これで第2回の「生活支援事業協議体」を終わりにする。